



現地の大学の方が熱心で優しく  
とても充実した2週間でした



工学部 機械工学科 3年 浜中美友さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否 :  可 ・  不可 派遣先: オーストラリア・RMIT

私は1年生の夏に語学研修に参加したことがありましたが、その後部活が忙しく、英語から遠ざかってしまっていました。そして部活引退後、また英語に触れたいと思うようになり、今回、他学科でしたがグローバルPBLの開催を知り参加を決めました。また、語学研修の際はあまり現地の学生と接する機会がなく物足りなさを感じましたが、グローバルPBLは現地の学生との課題解決型ワークショップなので必然的に交流できると思ったからです。

滞在先では平日はRMITでエネルギーに関する学習やプロジェクト、土日は各自で市内観光をしました。プロジェクトはグループに分かれて行き、各グループにRMITの博士課程の学生が一人ついて進めていきます。プロジェクトのテーマは二つあり、どちらもオーストラリアが実際に抱える問題です。私達のグループは水と電気の持続的な供給システムの無い村に供給システムを建設するテーマを選びました。村の需要、システムの効率、使用する材料、寸法、コストなど、スケールは小さかったですが全てを考える必要があります。正直なところ内容がつまっていて短期間でやるのはとてもしんどかったです。ホテルに帰っても夜の1時、2時までグループで話し合い、調べて計算し、発表のためのスライドを作った日が数日ありました。しかし、RMITの先生、学生がとても親切でわからないことはわかるまで何度も説明してくれたり、ただのプロジェクトではなく実際に起こっている問題で本当に自分が解決するエンジニアだとしたら、と熱心に教えてくれたので頑張ろうと思えました。そして最終発表後には先生からお褒めの言葉を沢山いただくことができました。

行く前は現地で博士課程の学生とディスカッションすることを知り、自分の英語力、専門知識の乏しさから不安に感じていましたが、RMITの皆さんが優しく熱心で、そんな不安もいつの間にか忘れるほどあつというまの2週間でした。また、滞在先のメルボルンは世界で住みたい街第一位に選ばれるだけあって、きれいで治安もよく、食べ物もおいしかったので楽しんで過ごすことができました。機会があればまたメルボルン、RMITを訪れたいと思うほど楽しく充実した2週間でした。



RMITの研究内容を聴講することができ、専門分野への関心が高まりました。ディスカッションを通して、積極的に発言する姿勢が身につきました。

工学部 機械工学科 3年 羽鳥 優平さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

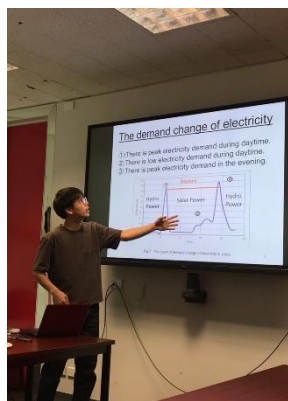
■公開可否：  可 ・  不可

派遣先：オーストラリア・RMIT

学年が変わるにつれ、英語の必要性を感じ始めたこともあり、はじめはTOEICの勉強をしていました。TOEICの点数は次第に良くなってきましたが、実際に英語圏の人々と会話をするととなかなか言葉を発することができず、TOEICの勉強ではスピーキング能力を身につけることが難しいと気がつきました。そのようなことに悩まされていた頃に、グローバルPBLを知り、海外の大学の研究内容、テーマに対するディスカッション、国際交流など、貴重な経験を積めるということで参加することにしました。

滞在期間中、通常はプレゼンテーションのために、午前10時前後に大学に到着してカフェテリアでテーマに沿ったディスカッションを午後3時過ぎまで行いました。また、RMITの研究内容を聴講する日もあり、専門分野に関する知識を深めることができました。RMITの学生と夜ご飯を食べに行くこともあり、文化交流に加えてお互いの専門に関する話や将来の夢について語り合うことができ、今後の研究に関するモチベーションにつながっています。

グローバルPBLは2週間といった非常に短いプログラムですが、語学研修とは違い、専門分野に関する知識も深めることができます。当初は英語のスピーキング能力を養うことが第一の目的でしたが、それ以上に専門分野に関する勉強へのモチベーションの高まりの方が大きいように思えます。また、留学をきっかけに一緒に留学した学生とも絆を深めることができ、今後の学生生活がより良いものになるであろうと確信しています。私自身、初めての留学であったため、色々と大変なことがありましたが、非常に良い経験になったと思っています。



間違えてもいいからとりあえず話してみようと思えるようになりました！

工学部 機械工学科 3年 岸本 朋也さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可 派遣先： オーストラリア RMIT

中学生の時から海外への憧れを抱きつつも、気づいたら大学3年生になっていたので良い機会だと思い参加しました。また、最近ではTOEICの勉強を始めて少しずつスコアが伸びてきていたので、自分の英語力でどの程度通用するのかを確認するチャンスだと考えていました。

gPBLのプログラムは、持続可能・再生可能エネルギーや水資源についての問題テーマが与えられ、チームで解決策を提案するというものでした。平日は午前中に2時間、午後は3時間程度RMITのTAを交えながらディスカッションを行いました。最初の方は、「言いたいことあるけど、英語でどういうんだっけ〜？」と話すのに躊躇していましたが、TAの方も優しく、段々と「間違えてもいいから、とりあえず話してみよう！」と思えるようになれました。またディスカッション以外にも、RMITの実験室や実験設備なども見学させてもらい、規模の大きさに圧倒されました。(キャンパスでは、カンガルーが目の前に現れることも…)。休日にはメルボルン市内や近郊の観光地を巡ったり、お土産を買って楽しく過ごしていました。メルボルンは治安もよく、とても過ごしやすい街でした。

2週間という短い期間のプログラムでしたが、言語や文化の異なる人とチームを組み問題に取り組む経験や、工学的な物事の考え方などを学ぶことができました。機械機能工学科のプログラムだったので、機械工学科の身としては上手く馴染めるか、また初めての海外なので英語でコミュニケーションをとることができるのか不安に思っていたのですが、周りの人はとてもやさしい方ばかりで、充実した2週間を過ごすことができました。



留学を通して、物事を考える際の視野が大いに広がりました。

理工学研究科 機械工学専攻 2年 井上 翔太さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

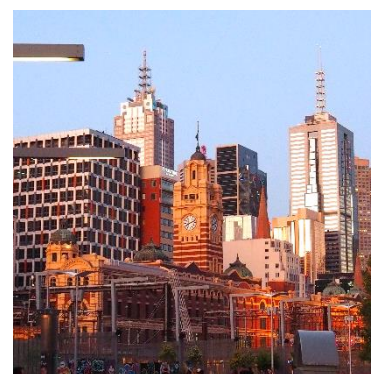
交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可 派遣先：オーストラリア・RMIT

2020年2月22日から3月7日まで、オーストラリアのメルボルンにあるロイヤルメルボルン工科大学(RMIT)にてグローバルPBLプログラムに参加しました。本プログラムは主に水処理や再生可能エネルギーについてのテーマを扱う物です。私は2020年4月からプラントエンジニアリングの会社に勤めることもあり、社会勉強と卒業旅行を兼ねて参加しました。

本プログラムでは、SITの学生とRMITの学生(PhD)が水処理問題やエネルギー問題に関するテーマに対して解決策を提示するワークに取り組みました。RMITの教授の方々やPhDの方々是非常に研究熱心であり、ワーク以外にも研究について様々なお話を伺い、議論することができました。英語を使って意見を交わすことには、大変なもどかしさと今後の伸びしろを強く感じました。

メルボルンは趣ある建物と近代的なビルが建ち並び、様々な文化を持つ人々が行き交う街です。また、美味しい飲食店や楽器を演奏する人が街角を賑わせ、路面電車が便利な足となる、居心地の良い街でもあります。様々な文化が共存する環境に身を置くことは、自身の視野を大いに広げる経験となりました。ワークも観光も非常に充実したものとなり、大変貴重な経験となりました。





エンジニアとして社会に出たら重視すべきは  
コストであるとよく身に染みた2週間でした

工学部 機械工学科 3年 平井華月さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可 派遣先： オーストラリア・RMIT

以前に他学科の受け入れ型のgPBLには参加したことがあったため、かねてより海外派遣型のgPBLに参加したいと思っていました。そんな時、機械機能工学科主催のgPBLが機械工学科も参加できると伺って、思い切って参加してみました。

このgPBLは大きく言うと『再生可能エネルギーによる化石燃料依存からの脱却』のための案を2つのアプローチで考えていくというものでした。日本人は3人で1班を作り、そこにそれぞれ再生可能エネルギーについて研究を行っているph.D.がついてくれました。オリエンテーションの段階では、主催の先生も「のんびりしていて良いところ」と仰っていたので観光や文化も学びつつ海外のph.D.と話もできる良い機会なのでは？と思っていました。実際には、一緒に参加した人にもよるとは思うのですが今回はまじめな人が多く、平日はあまり観光に行かずに大学に残ってph.D.とディスカッションをしてアイデアを詰めたり、ホテルに帰ってからも見えそうな学術論文を見てみたり、発表資料を夜中まで作ったりといかにもPBLらしい内容でかなり充実していました。心残りがあつたとすれば一回しかなかった土日を平日張り切り過ぎたために休日として使ってしまったことです。滞在した場所が市の中心部だったため、もっと頑張ってお金を稼いで観光しようと思えばできたのでは？と少しだけ後悔しています。

長々と感想を述べましたが、こんな未練が残るほどによい場所で、良い人々に恵まれて2週間で過ごすことができました。先生方やph.D.の方々もこちらの努力をきちんと評価してくれた上に、今後の研究内容に役立つだろうからとプログラムに参加していないph.D.のお話を聞く機会を設けてくださったりもしました。頑張るだけ自分に返ってくるものが多くあるプログラムだと強く感じます。